

令和2年度第3回白井市市民活動推進委員会（全体会）会議録

1. 開催日時 令和2年10月27日（火）午前9時30分～正午
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎1階
しろい市民まちづくりサポートセンター 多目的スペース
3. 出席者 関口宏聡委員、清水洋行委員、長島悟委員、近藤健司委員、
川鍋正治委員、大田茂子委員、黒木弘司委員、篠崎慶子委員（名簿順）
4. 欠席者 湯浅章吾委員、迫田妙子委員、亀川香委員（名簿順）
5. 事務局 松岡課長、中原主査補、高橋主事補、
石垣裕子しろい市民まちづくりサポートセンター長
6. 傍聴者 なし
7. 議 事
 - （1）市民活動推進委員会の役割と担当委員の選任について〔公開〕
 - （2）委員長・副委員長の選出について〔公開〕
 - （3）白井市の市民活動に関する施策について〔公開〕
 - （4）令和2年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について〔非公開〕
 - （5）しろい市民まちづくりサポートセンター 平成31年度事業実績について〔公開〕
 - （6）コロナ禍における市民活動について〔公開〕
 - （7）今後の委員会予定について〔公開〕

8. 会議概要

- （1）市民活動推進委員会の役割と担当委員の選任について〔公開〕

〔事務局説明〕

質疑なし。

- （2）委員長・副委員長の選出について〔公開〕

〔事務局〕 白井市附属機関条例において、委員長、副委員長は委員の互選により定めると規定していますので、委員長、副委員長の選出をさせていただきます。どなたか、委員長の選出、自薦、他薦ありますでしょうか。

〔事務局〕 ○○委員お願いいたします。

〔委員〕 委員長に○○委員で、副委員長に○○委員を推薦いたします。

〔事務局〕 ありがとうございます。ほかに御意見がある方はいらっしゃいますでしょうか。ほかになければ、委員長、○○委員よろしいでしょうか。

〔委員〕 はい。

〔事務局〕 副委員長のほう、○○委員よろしいでしょうか。

〔委員〕 はい。させていただきます。

〔事務局〕 ありがとうございます。それでは、委員長には〇〇委員を選出することについて、皆さん、よろしければ、拍手をお願いいたします。

〔拍手〕

〔事務局〕 また、副委員長について、〇〇委員でよろしければ、拍手をお願いいたします。

〔拍手〕

〔事務局〕 ありがとうございます。

それでは、〇〇委員長から、お席をまず移動してもらっていいですか。この後の議事は、議長をお願いいたしますので。

そうしましたら、〇〇委員長から、一言いただいてよろしいでしょうか。

〔委員長〕 改めまして、委員長、互選いただきましてありがとうございます。〇〇です。

この白井市の委員会も活発な意見交換が行われるということで、私も交通整理役として、なかなか大変な面もあるのですけれども。前期のときにも申し上げたのですが、この手の行政の審議会とか委員会というのは、ともすると、本当にしゃんしゃんの、しーんとした、何か事務局が一方的に説明して、それを承認するだけみたいな、そういう会議もある中で、この委員会は、皆さん様々なバックグラウンドを持った方が、本当に実際に中身のある議論を毎回毎回しっかりしていただけるので、私も本当に、大変な反面、楽しみにしております。

交通整理役としては、せっかくお越しいただいているからには、毎回、最低お一言くらいはコメントを頂けるようなことを心がけておりまして。ちょっと無理やり、最後のほうまで御意見がない場合は、こちらから振らせていただくということもやっておりますので、申し訳ございませんが、できる限り御協力いただきまして、円滑な議事進行に御協力いただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

〔事務局〕 では、議事の3番目以降、〇〇委員長のほうの議事進行をお願いいたします。

(3) 白井市の市民活動に関する施策について [公開]

〔委員長〕 ありがとうございます。それでは、ちょっと会議室が広いもので、少し皆さん、申し訳ないですが、声を張ってお願いできればと思いますけれども。

それでは、3番目の議題であります白井市の市民活動に関する施策についてということで、全体の白井市の今の施策状況について、事務局のほうから御説明をお願いいたします。

〔事務局説明〕

〔委員長〕 ありがとうございます。今日は、補助金の審査員の方は、もう2回もやられているので、ある程度御理解をいただいていると思います。今日、初めて御参加の方については、そもそも市民活動の施策のどんなメニューがあるのかということも初めてお

聞きになると思いますので。具体的な内容の議論は、次回の12月、2月にもやりますので、そこらのほうで深掘りするとしまして、逆に、単純にお聞きしたいことですか、あとは、例えば12月とか2月の委員会で、もっとこういうところを議論したいとか、詳しく聞きたいということがありましたら、質疑ということだけでいただければと思うのですけれども。手を挙げていただいて、御指名したら発言をお願いします。いかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

〔委員〕 これ途中から、小学校単位のまちづくりというのが出てくるのですけれども、これって、なぜ小学校単位になったのかなというのが分からなかったのですけれども。

〔事務局〕 自治会がコミュニティの最小単位ということで、これまでずっとあったわけなのですけれども、自治会の担い手の方々もなかなかいない状態ですとか、そういったようなことで自治会がどんどんと衰退していく方向にあるということ。それから、地域に関わる様々な課題、防災や防犯や福祉や子育てや、様々なそういった分野の課題というものが、これからより一層深刻化していくであろうと。その中で、地域のそれぞれの団体さんの単独の活動だけでは、なかなか課題解決というところまで結びつかないということで、地域にある団体さんが協力連携し合っていく。その際のエリア設定として、中学校区だとか小学校区だとか、あるいはもう少し小さい単位もあるかと思えますけれども、その中で小学校区が、顔が見える、生活実感がある程度共有できるという単位と範囲ということで、小学校区単位のまちづくりということをやっていることとなったというのが経緯です。

〔委員長〕 はい、どうぞ。

〔委員〕 すみません、ちょっとよく分からないのですけれども。顔が見えるとおっしゃっていたのですけれども、小学校に通っていない、高齢化がどんどん進んできて、子供が減ってきている中で、子供がいない家庭、小学校に行っていない家庭とか多くなってきているのに、その中で顔が見えても、地域の人たちは見えないのではないか。ちなみに、私らのところは、結構知らない人がいっぱいいるから、小学校単位で何やっているのかなというのは、お子さんを持っていないと、ほとんど分からないのですけれども。それで顔が見えるというのはよく分からない。

〔事務局〕 顔が見えるといえ、向こう三軒両隣とか、自治会の範囲だというようなことになっていくわけなのですけれども。先ほど申し上げた、そういった範囲、単位の中では、なかなか課題解決も難しいという中で、顔が見える最大の広範囲というものが小学校区。顔が見えるというか、顔が見えないわけではないという言い方のほうが、もしかしたら正しいかもしれませんが。それぞれ世代によってライフスタイルも違えば、マンションが違えば、その中のマンションごとに人口構造が違うということで、生活は様々ではあるのですけれども、少し大きめに考えて、顔が見えるという範囲の、要は限界点ということで、小学校区というような考え方。

〔委員〕 もう一個だけいいですか。ちょっとよく分からなかったのですけれども。

[委員長] じゃあ、最後、はい。

[委員] 小学校区にしたときに、小学校区と、あんまり小学校とかと関係ない人たちは、じゃあどうする。対象としていないのですか。

[事務局] 小学校区というのは、小学校にお子さんが通われているかというようなことではなくて、住んでいるまちづくりをしていくエリアの設定を小学校区というふうにやっているということ。その小学校に子供が通っている、通っていないというような意味合いでの言葉の使い方ではないです。

[委員長] はい。

[委員] これ、〇〇さん、私も2年前、桜台小学校区でやっています。あまり小学校というところに重きをおかないで、たまたま小学校エリアで分けていると、そういう考え方でいいと思うのです。というのは、私も昨年の桜台小学校区で、年間1回のイベントをやったのですけれども、これは、ほとんど高齢者が対象でした。小学校とか中学校というふうにあんまり強調すると、誤解を招くのですが、これは市がたまたまエリア分けのネーミングだけでありまして、小学生とか子供とかそういう重点ではなくて、あくまでも市の対象は、小学校からお年寄りまで全員でありまして。たまたまネーミングが小学校区。このモデル小学校区の選定するときも、うちにも説明していただいて、打診があったのですけれども、うちとしては、この方針については静観しようということで、モデル地区からは外れたのですけれども。モデル地区二つでやって、来年ですか、設立を目指して実験的にやろうと。その評価をまた小学校区に戻って説明しよう、ということですよ。だから、あまり小学校とか小学生とか、そういう文言にあまり気を使わないでいいと思います。私の考えです。

[委員長] ありがとうございます。

次、〇〇さん。

[委員] 今、二つの意見聞きましたけれども。小学校区、私、第二小学校、在来地区なのですけれども、小学校区単位というのを決めつけるのはどうかと思うのですけれども、この分け方、今の分け方では、一番適正かなとは思っています。第二小学校区で、今、顔が見えるとか見えない話になりましたけれども、地域性があると思うのですけれども、なるほど。私が聞かれたら、人脈とか顔、そういうのは小学校単位だと、在来地区ですので、すぐ分かるのですよね。他の地区は全く分からなくても、自分の学校の小学校区、それは区長であれ何であれ、大体分かっちゃうから、自分たちだけの考えだと、これぴったりだと思うのですけれども。全体的に考えると、白井もそういう状況になっているのかとは思っています。

でも、地区を分けるのでしたら、小学校区、名称はよく分からないのですけれども、これが現在の中では、一番ベストな分け方かなとは、自分自身、在来地区を考えて、ほかはあまり考えないのですけれども、そのように考えています。

[委員長] ありがとうございます。

ちょっと私から整理のために。これ、ちなみに一小学校区の人口規模は、大体何人ぐらいなのですか。

[事務局] 差がありまして、4,000人程度から1万人程度まで。

[委員長] だから、先程から出ているとおり、小学校というのが大事なわけではなくて、どこで市の全体のコミュニティを階層化していくかというときに、市全体があって、一番小さい集まり、コミュニティが自治会とかだとすると、その中間として、中間層として区切るときに、小学校区の単位というのは、一つの分け方を使っているという理解でいいのですよね。それが、4,000人単位から1万人単位までであるということです。ちょっと説明は、あれだろうと。

あと、時間も押してきちゃっている。小学校区単位のこのまちづくりについては、次回以降、次回2回ありますので、そちらのほうで詳しく議論をさせていただくということで、ほかの点についてどうでしょうか。ほかの方、あるいは、ほかの点について、御質問とか。よろしいですか。

はい、どうぞ。

[委員] 実は、自己紹介のときに、防災リアル訓練のというお話もさせていただいたのですが、実は、29年度から桜台地区のほうで始めさせていただきました。昨年度、この補助金を使わせていただきました。どうしてもNPOさんですとか、私どものように有志が集まったところだと、やりたいのだけれども、財源がないというようなことが、よく言われているのですが、この補助金があることで、多くの市民の方が集まって活動ができたということがありますので、この白井市としての活動が非常にありがたいなというふうに思っております。

[委員長] ありがとうございます。前期から引き続きの委員としては、審査させていただいた側なので、本当に御活用いただいてありがたいです。ありがとうございます。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら、やっぱり小学校区単位のまちづくりがホットなテーマだということを確認できました。このことについては、次回以降で、詳しくモデル地区の二つの進捗報告ですとか、そもそもの議論についても、しっかり時間をとってさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

それでは、続きまして、議題の4番目に行かせていただきたいと思います。令和2年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果についてです。ここは非公開ということで、よろしく願いいたします。

(4) 令和2年度白井市市民団体活動支援補助金の審査結果について[非公開]
(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。

(5) しろい市民まちづくりサポートセンター 平成31年度事業実績について[公開]
[委員長] それでは、早速ですが、5番目の議事として、しろい市民まちづくりサポートセンター平成31年度、昨年度の事業実績について、〇〇さんのほうから御説明いただきたいと思います。よろしくお願ひします。

[事務局] では、お手元の資料3を御覧ください。31年度の4月1日から令和2年度3月31日までの事業報告ということで、これから説明いたします。

先ほど、資料5より1ページ、2ページについて説明がございましたが、補足といたしまして、2ページの七つの機能のうち、2年目は、まちサポ重点項目として、相談機能、それから資源の掘り起こし・提供機能、そして5番、交流・コーディネート機能。このところを重点的に展開するようにということで計画がござひます。とはいえ、1年度から前倒して機能のほうも取り組んでおりまして、主に中心になるのは、交流機能というところに力を入れてやっけてまいりました。

3ページをお開きください。30年度と31年度の対比になるのですけれども、大きなところでは、拠点のところの登録団体数です。30年度は74団体に対して、94団体と、20団体、団体数が増えました。この内訳は4ページ以降にあるのですが、増えたジャンルといたしましては、保健、医療、福祉、またはまちづくり。こういったところの団体さんが増えたというふうによつてております。

あと、情報収集というところでは、ホームページの充実を図つております。これは何かというと、30年度までは団体の名前だけだったのですが、名前をクリックしていただくと詳しい情報まで見られるようになりました。その情報が何かというと、お手元にあるコミュニティ図鑑というものを作つたのですけれども、こういった詳しい情報をホームページ上でも見られるようになっております。

それからあとは、交流コーディネートです。「まちサポひ・ろ・ば～市民交流DAY～」というのを市民の皆様と実行委員会形式で行つたということが大きなところでござひます。

育成については、Facebook。皆さんが情報発信で一番悩まれていらつしゃつたというところもあつて、これは外部講師ではなく、まちサポのスタッフが講師として、身近な相談相手として講座をやつてみたというところござひます。31年度は若干、延期した事業もござひますが、それも今年度というところでスライドしてありますので、じっくりと事業のほうは御説明を後ほどいたします。

4ページ、拠点機能です。先ほど御説明しました団体の一覧が載つております。丸のついているところが、新しく31年度に登録になつた団体さんでござひます。

7ページをお開きください。ざっくりと傾向を大なりの記号で表してあります。まず、利用人数です。全体で何人ぐらいの方がまちサポにいらつしゃつたか。拠点機能の数値となるところですが、31年度のほうが多いということです。後ほど、詳しく数値を御説明し

ます。会議室・多目的室の利用も増えております。共有スペースという、まちサポの中に無料で市民活動の簡単な話し合いとか、お待ち合わせなどで使っていただけるスペースがあります。それから、掲示板であるとか、パソコン、プリンター、こういったものを自由に使っていただけるところも利用が増えております。作業スペース。これは印刷です。団体活動で肝となります印刷の利用も増えております。また、施設の予約であったり、相談であったりという様々な受付なども、30年度に比べて増えているという傾向がございます。

8 ページ以降は、詳しい数値の御説明なのですが、まず、皆様に御注意いただきたいのは、30年度の4月というのは、数値がゼロになっております。これは、まちサポの開館が5月であるために実績はございません。30年度は、トータルをそのあたりも勘案して数値を御覧いただくとありがたいと思うのです。

早速、この利用人数の比較。30年度は、一番下に、稼働日数が310ありました。利用人数は1万2,557名。31年度は、稼働日数が340。これは4月の分が入っているから多くなっています。1万6,563名という形で、4,000名ほど増えている。旧センターに比べると、6,127名に対して、2.7倍の人がいらっしゃったというふうに見ていただければと思います。

このような形で、9 ページになりますと、会議室です。合計のところを見ていただくと、13.8%の利用率に対して18.2という形で、5ポイントほど増加をいたしております。

共有スペースも同じように見ていただきまして、全体で1年間、1,533名の方がいらっしゃったのですが、例えば、どういう方がいらっしゃるかといいますと、会議室を利用するほど人数集まらないけれどもという形でいらっしゃる方もいるのですが、例えば、団体としてまだ組織されていない市民大学の卒業生の方々など、これからどうしようかといったような話し合いでしたりとか、簡単な役員会みたいな形で御利用になるケースが多々ございます。

多目的室。今、皆様がいらっしゃる部屋を多目的室と言っておりまして、これは、この白いボードが展示に使われる壁になったりします。スポットライトもつけていますので、そういう形で、作品会をする展示スペース。それから、セミナーであったり、またはイベントであったり、こうやって会議であったり、いろいろな使われ方をするものでございますが、30年度は、利用日数が132でした。それに対して、156ですが、31年度の利用日数で、4月が6、7月が1と若干低い数字が出ております。これは何かというと、選挙があった年なのです。期日前投票ということでここも占有されたために、まちサポとしての利用日数が大変低いという状況になっております。ただ、31年度は、利用の仕方も変化がありまして、写真展が2回連続続いたということがありました。これは何を意味しているかというと、お互いに設営の手間を省こうということで、A団体さんが写真展終わったら、B団体さんが今度はそのまま使って、撤収を担っていくというようなことで、団体同士で工夫

して御利用いただける姿も見られるようになってまいりました。

それから、12ページ。印刷です。これはやはり皆様の御様子を見てみると、イベントのチラシであったり、総会資料の印刷であったり、また自治会さんであれば、広報ですね。非常に安く仕上がるということもありまして、定期的に御利用になる団体さんが多いです。ずっと見てきていただいて、31年度の印刷機、4月5月6月、40件以上あるのですが、やはりこの辺りは総会資料が多かったです。だんだん団体さんが知れ渡るようになると、御利用が高まってきたということで。それ以降は、コンスタントに数値も伸びているかなと思います。30年度に比べて認知度が高まったというところで、利用も増えてきたなというのが実感でございます。

13ページは細かい数字ですので、傾向としては、30年度に対して、31年度は増えているかなというふうに思います。

あと、14ページは、多目的室の利用の方法で。これ人数出ておりますが、団体さんからの報告であったり、こちらであらかじめ伺っていた概数ですので、実数を示すものではないのですが、一つのイベントでどのくらい人がいらっしゃるのかなというふうに見ただけならばと思います。4月14日からの選挙については、約4,900人。7月については7,258人。このように大勢の方がいらっしゃることも、実は、まちサポに立ち寄る方が増えていたり、ここはどういう施設ですかと行って、こういうコミュニティ図鑑をお持ちになったりということで、この利用の来所以外に影響を受けるということがございました。

駆け足で数値的なところを御説明したのですが、皆様よろしいですか。次に参ります。

では、17ページ。ここから機能別に御報告します。拠点機能というところで、印刷機が非常に意味がありますという説明をしたのですが、それを活用していただくということで、私たちがデモンストレーションする会がございます。印刷マスター塾とって、やっってくださいと言われれば、御予約をしていただいて私たちが準備をします。事業概要のところ、例えば、印刷機。いつも、例えば、会報を1色だけ、墨だけで印刷しているのを赤も入れてみようかとか。総会資料を組むのが大変、紙を折るのが大変というのは、実際にデモを私たちがいたしますので、どれだけ速いかをやって見ていただいて、実感していただく。

それから、A2プリンターというのがあるのですが、ポスター用なので、例えば、何かイベントがある、地域でこれを広めたいといったときに、普通のインクだと、なかなか色が良くないのですけれども、こちらのA2プリンターは、9色のインクから成るので、発色が素晴らしいということもあって、何かのときに御利用になれますという御案内をしています。こういったことの稼働を高めるということでの一例でございます。

18ページ。情報収集については、掲示であったり、お預かりしているパンフレットなどの情報をいつも収集しているというところもあるのですが。真ん中の、民間助成金コーナーというのを御覧ください。いろいろな事業者さんから、助成金の御案内等をまちサポに

送っていただきます。それをいろいろ皆さんに見やすくなるように配架しています。その情報はホームページでも御覧いただけるようになっているのですが、最近、その助成金の情報を得たいということで、そういう目的でいらっしゃるようにもなってきました。

あと、コミュニティ図鑑です。こちらです。まちサポ交流DAYのときに合わせて発行したので、若干掲載の内容が更新かかっているものもありますが、こういったもので、実際、手に取っていただいて、市民活動にアクションにつなげていただくツールとして整備したものです。選挙のときとか確定申告のときに、この辺りにいらっしゃった方が、実際お持ちになるということがございます。

あと、ホームページについては、先ほど来申し上げていますが、こちらのコミュニティ図鑑の内容が見られるということになっています。あと、Facebook。私たち結構、Facebookでの情報発信も意識してまして。下を見ていただくと、団体で企画したイベントを私たちが取材に行くパターン。それから、まちサポと市民の方の主催になるのですが、自分たちの主催事業、交流事業ですが、それを発信している。あとは、補助金の案内とか、団体活動の皆様届けたい情報をFacebookなどで発信。このような内容でやっております。Facebookの表を見ていただいて、11月は投稿数10件で、リーチが1,911、フォロワーが12。これは何を意味しているかというと、この時期に交流事業、まちサポひろばというのをやっているために、皆さんが関心を持ってくださって、フォロワーになってくださった。やっぱり大きな出来事があると、こういう形で反響があるなというのが実感です。

次、21ページを御覧ください。まちサポ通信です。今日お手元に配った赤白のものです。こういうものを年2回発行しております。公民館とか、いろいろな市内随所、駅にも置いてまして、皆さんに手を取っていただきやすいように、市民活動の裾野を広げるという意識で発行しているものです。5月から3月までコンスタントに、それぞれのときの編集内容を変えてやっています。基本的には、団体さんの御紹介であったり、こちらから補助金のこととか、情報発信をしていくということで構成しております。最近の傾向では、まちサポから各団体さんに送ると、メンバーさんの分も欲しいですと言って、取りにいらっしゃる団体もいらっしゃいます。

では、22ページ、相談に参ります。相談は、実は昨年107件に対して、今年は85件だったのですが、これは何を意味しているかというと、初年度は、その場では答えられなくて、また次回来ていただいたときに御回答いたしますということが多かったのですが、私たちのスキルが上がったので、補助金でしたら、こういうのがありますよとか、その場で対応できるようになって、継続案件が減ったというのが、この数値になっています。相談ジャンルの内訳としては、1年目も2年目も大変多いのが、団体の運営です。運営に関することでお悩みの団体さんが多いです。ビジョン共有とかで悩んでいる方もいますし、高齢化でメンバーが減ってきてしまっている、新しい会員さんを増やすにはどうしたらいい

かといった相談が多いです。

あと、地域情報で、今年突出しているのは、30件となっているのですが、これは何かというと、CSRを推進したい事業者さんが、どんな市民活動団体さん、例えば、子育て関係で活躍されている、活動されている団体さんを紹介してくださいといったような御相談で。事業者さんと地域の情報をいろいろ提供したりしているので、件数が伸びています。

駆け足ですみません。23ページ、資源の掘り起こし・提供機能。これは、まだ市民活動に参加していないのですけれども、担い手をどんどん増やしていくという意味で、何かしたいけれども、どうしたらいいかわからないという方もよくいらっしゃるので、シートを作りました。下の部分です。どんな思い、何をなさりたいか、そのためにどうしたらいいと思いますか、みたいなものを情報整理するためのシートを作りました。これは実際、相談のときに使うこともありますし、このシートを使って事業化したのが、ふたば編ということで。実際来ていただいて、これから何かしたい、立ち上げたい、これから始めたいという方に、シートを使って、これでやっていこうというような見つめる機会を7月に実施しております。

そして、25ページ。31年度の大きな事業となりました交流・コーディネート機能。「まちサポひ・ろ・ば～市民交流DAY～」ということで、第1回実施いたしました。1年間の振り返りといたしましては、各登録団体さんに全て呼びかけて、交流の場を一緒につくっていきませんかというところで、応じていただいた方が32名、実行委員として組織をされました。そして、時には、広報のことで集まっていたり、企画について集まっていたりということで、11月30日に実施したというのが経緯でございます。そしてさらに、年明けにアーカイブ展ということで、振り返りの展示もこちらの多目的で実施いたしました。その詳しい内容が26ページです。

登録団体が、当時81あって、38団体が何らかの形で当日は参加をしていただいています。ステージプログラムであったり、小学校地区自慢大会だったり、こういったことは企画の部門が進めていただいた内容です。当日の来場者は540名となっております。この限られた目に見える範囲の会場なのですけれども、非常に一日中にぎわっていたというのが印象です。事業風景は、御覧の形で、今から思うと、非常に人がにぎわっている様子が見てとれるかなと思います。成果として位置づけられるのは、まちサポを知らない市民というのも、この交流DAYをきっかけにいらっしゃったということもありますので、市民活動が広がっていくきっかけになるのかなという形です。

27ページに、アーカイブ展ということで、写真であったり、映像も撮っていただいたということがありまして、映像を上映したり。それから小学校地区の自慢大会というのがあったので、そのアウトプット、掲示です。これもよく御覧になる方が多かったです。このような形で、当日参加できなかった方にも関心を持っていただくというのを実施いたしました。

主だったところは交流事業なのですが、育成のところは、広報ツールとか、あと補助金講座です。これは補助金を申請してみようという団体さんに、背中の後押しでやるものです。

あと、33ページは、いろいろな方々をつないだというところで御紹介をしている内容になっています。中間支援として、いろいろな方々をつなぐという機能をやっているところで、実績の御紹介をいたしました。以上です。

[委員長] ありがとうございます。そしたら、20分ぐらいお時間取りますので、御意見、御要望等ありましたら、御自由をお願いします。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] これを聞いて、委員会は何をすればいいですか。何をすればいいのか分からなかった。

[委員長] 一つは、内容の確認というか、こういった報告についての質疑が一つ。それは内容の程度で。それはどちらかという重要ではなくて。どちらかという、31年度の報告を聞いていただいて、ここは、もうちょっとこうしたらいいのではないかとか。どちらかという、具体的なアドバイスとか要望とか、そちらのほうを期待しているという理解でいいと思います。よろしいですか、今の。

[委員] そういうことなのだなと。

[委員長] そうなのです。あとは、例えばこういうデータの取り方じゃなくて、もっとこういう指標が必要なのではないか、K P Iが必要なんじゃないかとかというお話も歓迎です。

[委員] それはありました。

[委員長] はい、どうぞ。

[委員] これ、後ろのほうの例えば24ページのあたりとかでも、表で書かれているというところがあって。「思いの花を咲かせましょう～ふたば編～」とあるのですけれども、その中に、成果というのがよく書かれているのです。こういう成果がありましたねと。モチベーションが向上したとか、ほかのところでも、行動を促進できたと書いてありますけれども、この根拠が分からないのです。どうだったから、こうなったのだということを言っているのかが分からなくて。逆に、人数が増えたとか、そういう数字で分かりやすいところだけ細かいデータが出ていて。そっちは増えたと書いてあれば、それでいいだけなのに、何を伝えたいのかなというのが分からなくて。逆に、こっちのほうで、それによりモチベーション上がったのだよと、こういうことからこう言っているのですというのがないと、本当に効果があったかどうか、後で分からないということがあると思うのですけれども。そういうところを何か書いたほうがいいのかもしいかな。

[委員長] そういうのを。そういう感じです。

何かありますか、〇〇さん。〇〇さん、何か今、言える根拠があれば。

[事務局] なるべく数字データが提示できるものについては、今後は数値化して、可視化していける根拠を提示したいと思います。モチベーションとかということになると、帰られるときに、ぜひやってみますみたいなところだったりするので、その後のフォローとか、こういうふうにしましたというのを具体的に書けるような形にしていきたいと思います。

[委員長] 大丈夫ですか。ほかの方、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

[委員] 自治会さんが結構登録されているようなのですけれども、そちらのほうは、結構アプローチされているのですか。自治会が登録団体として、これは自治会のほうにアプローチされているのでしょうか。

[事務局] こういったものも。

[委員] 別に自治会にということはやっていないということですか。

[事務局] そうですね。30年度などは、自治会の皆様が集まったときに、こちらのリーフレットを配らせていただいたりもしています。

[委員] その後、団体登録するといろいろなメリットというか、利用できますよということと、あと登録すると、代わりにこれをやってくださいと必ずあるのですけれども、何かありますか。登録団体は例えば。

[事務局] まず、自治会さんのメリットですよ。

[委員] は、あると思うのですけれども。逆に、何でメリットがあるのに入らないのかなと思うのですけれども。いろいろなスポーツ団体とかも、団体登録すると、代わりにこの役割やってくださいとかあるのですけれども、これはないですか。

[事務局] ないです。まちサポから、いろいろ一緒にやりませんかという呼びかけはありますけれども、ノルマ的な役割を振られるということはないです。自治会さんは、登録がなくても、印刷機とかを御利用になれるのです。ただ、例えば、総会の際に、非常に予約が立て込んでいるときに、登録をされていらっしゃる予約ができるので、皆さんで待ち合わせして、この時間に、ガツと作業するということが決められるというのがあって、それがきっかけで自治会さんの登録になることが多いです。

[委員] 今会議をしているこの会議室は、多目的スペースとしても利用できかなり広い。ここも団体登録なしで利用できますか。

[事務局] 会議室など、登録団体さんでないと使えないお部屋もあります。なので、そういうことを目的に、自治会さんが登録されている方もいらっしゃいますが、自治会さんによっては、御自分たちの会議室をもうお持ちなので、印刷の予約だけができればよいということで登録になっている方もいらっしゃいますし、登録がなくても使えるということで、御利用になっている自治会さんもいらっしゃいます。

[委員長] よろしいですか。ほかの方、いかがでしょうか。

[委員] またいいですか。

[委員長] ちょっと待っていただいていいですか。ほかの方、どうですか。

〇〇さん。

[委員] この事業報告の2ページに、まちサポの機能があって、1から7までステップアップしていくというプロセスだと思うのですけれども。今年が2年目で、2年目としてやることは、3、4、5のところというところですよ。

[事務局] 重点項目として。

[委員] 今日お話伺って、資源の掘り起こしとか交流というのを随分進めてらっしゃるのだなということが分かりました。ただ、それが何のためにやっているのかというと、その次の6、7を見据えてということだと思えるのですよね。

[事務局] はい、そうです。

[委員] 7はちょっとあれですけれども、6番の育成で、スキルアップあるいはステップアップです。それから、専門性を高める。それから、団体のマネジメント能力を高めるとか、コーディネート機能を高めていくということで。このまちサポが、駅前ひろばから引き継いで団体を育てていって、白井市のこの市民活動の業界というか、世界を支えていくような、そういう団体を作っていくということも重要だと思うのです。

今日、お話を伺っていて、裾野は随分広がっているのだなということは御報告あったのですけれども、今後に向けてのこの7番の育成機能に向けての何か可能性というか、材料とか、そういうことは見えてきたりされたことはありますか。

[事務局] ありがとうございます。市民交流DAYを実施したことによって、登録団体さん同士が、非常に企画の段階から、いろいろ皆さんが知恵を出し合って一つの形にしていくというプロセスをたどりましたので、皆さんの持ってらっしゃるスキルとかノウハウを私たちが学ばせていただいたという立場ですし、そこからまた、すごいエネルギーが発揮されたということも目の当たりにして、こういうことは大事なのだなと。そういう機会を本当は、今年もさらにバージョンアップしたいというところでしたが、その認識は来年度にといったところですよ。

[委員] すごくいい話だと思うのですけれども、もう一つ。せっかくの登録、4ページ、6ページのところで、活動分野別というところで分類されたりして。こういうところも何か登録団体を一覧にすることで見える化していって、市民の方がこれを見て、コミュニティ図鑑もお作りになって、市民の方が参加しやすくなるということも役立っているのだなと分かるのですが。もう一つは、グループ同士をつなげてステップアップしていくというところに、何かつなげていける材料なのではないかなと思うのですけれども、そこは何かお考えあつたりしますか。

[事務局] 環境系については、目指したいビジョンが割と共通だったりもするので、御一緒に活動するところに私たちも行って、様子をさらに発信したりということもありま

す。

あと、例えば、82、83、ささゆり会とサポートナースは、できたばかりの団体さん同士だったのですが、ささゆり会さんは、御自分でケア帽子と言って、タオル生地とかでお帽子を作ってらっしゃる。いっぱい作ったのだけでも、どうしようかという御相談があった団体さん。サポートナースさんは、看護師さんのOBの団体さん。そこで一緒になって病院とか介護施設を回っていただいて、お互いにエンパワメントしたという例もあるので。中間支援として、団体同士をというところもあるのですが、それをさらにパイを広げてもっと底上げができたらいいいのかなという。

[委員] 何か定期的な場、個別のネットワークもすごく重要だと思うのですが、いろいろな出会う場というのは、こんな会議で、いろいろな人が、そんなに知り合いではない人たちも参加できるような場づくりも、何かしていけるといいのかなというふうに思います。

[事務局] はい。ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

〇〇さん、どうぞ。

[委員] 昨年、報告していただいたときに、今回やったような補助金申請された団体さんに、もう少し寄り添って、書類作りを詳しくというか、分かりやすくというか、そういうのに寄り添いますみたいなことをおっしゃっていたと思うのですが、今回はいかがだったのでしょうか。

[事務局] 相談の経緯の中で対応させていただいたりとか、相談まで行かなくても、さっきの思いの種のシートではないですが、実現するのは何か、それを実現するためにはどうするかというものをお渡ししたりとか。書き方を私たちがというよりは、考え方の方向性としてお示ししたり、あとは、プレゼンのリハーサル。これを私たちが測定をして、実際やっていただく。ただ、何もコミットしませんが、30分間の中で毎回毎回同じことをやる方もいるし、1回やって、ちょっと作戦を練ってもう一回やるみたいな団体さんもいるのですが、とにかく30分間真剣勝負で、私たちが聞くという場をやっていただいて、かなりブラッシュアップされている団体さんもいるので、そういう寄り添いをしています。

[委員] どれぐらいの団体数ですかね。

[事務局] 今年ですか。今年じゃなくて。

[委員] 今年度に向けての人たち。

[事務局] こちらから呼びかけてトライしませんかというところで、応じていただいた団体さんなので、30年度は、29ページです。5団体がプレゼンのリハーサルにトライされたということです。

[委員] ありがとうございます。

[委員長] ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。
なければ、〇〇さん、どうぞ。

[委員] でも、私も一瞬で終わってしまうのですけれども。

[委員長] どうぞ、どうぞ。

[委員] この新規登録団体が丸がついていて、結構増えてきているなと思うのですけれども、これは何をきっかけに、ここへ入ってくるかという。よくウェブを見てきましたとか、口コミで来ましたとか、そういうのは分析されているのかなと思っていて。そういうのが分かると、こういった誘い方をすれば、もっと新規団体が来てくれるというのが分かると思うので。もしやっていないのであれば、そういったところを、せっかくだから新しく来たところには聞いてみるといいのかなという気がするなというのが、一つと。

あと、もう一個だけなのですけれども、これ機能の中で、7番のところというのは、今回何もやっていませんよということだったので、できれば報告のときには、やったことは分かるのだけれども、やらないことは、何でやらなかったかということも教えてほしいなと思って。二つだけです。

[事務局] 分析については、ある程度あるのですが。これはまとめて、次回以降、きちんと明文化したいと思います。

できなかったこと。調査研究でございますが、これは今年度なので、31年度の報告なので触れなかったのですが、3年目の重点項目として実施するというところで、31年度は着手しておりません。

[委員長] どうぞ。

[委員] 計画でそうなったということですね。

[事務局] はい。

[委員] 了解です。分かりました。

[事務局] そこについて言及しなくて、申し訳ありません。

[委員長] ほか、いかがでしょうか。

なければ、私からもいいですかね。

前回も申し上げた気がするのですけれども。いわゆるPDCAのサイクルからすると、目標値とか、例えば、いろいろと実績は出していただいているのですけれども、そもそもどれぐらいを目標にして取り組んだのかというのが分からないと、評価のしようがないというのがありまして。例えば、稼働率とか1日当たりの利用人数とか。基本的には、そういうのは増やすというのが目標だと思うのですけれども、ただやりました、これだけ来ましたというだけだと、非常にやりっ放しになってしまっていて、次の改善につながらない。先ほど〇〇さんの御指摘にあった、新規入会の経路の分析とかもそうなのですけれども。

ぼちぼち3年目なので、例えばベンチマークとして、同じような財政規模とか人口規模で、市役所の1階という非常に恵まれた立地にあるセンターというのは、例えば、千葉県

内でいうと、浦安市のセンターとかはそういった立地にありますので。例えば、浦安市の市サポと比べて、白井市のまちサポは結果としてどうなのか、成績がいいのか、悪いのか。何が悪いのか。それで、その原因は何なのかとか。最低限のことはやってらっしゃると、私も思うのですけれども、ぼちぼちそこら辺までしっかり取り組んでいただかないと、せっかくすごく立地もいいし、予算もかかっているしというところのセンターが、宝の持ち腐れになっちゃうなという気がするのと。

あと、ホームページ等で助成金の情報とかも、載せてらっしゃるには載せてらっしゃるのですけれども、やっぱりNPO業界にたくさんある助成金の情報からすると、非常に少ないと思います。なので、待っているだけではなくて、助成金情報とか、様々な支援施策の情報というのは、自分から取りに行かないと分からないものなのです。だから、送られてくる助成金の情報だけ、そのまま配架しましたで終わりではなくて、なければ、探しに行く、もっと聞いてみるとか、そういう攻めの姿勢を見せていただいたほうが、3年目なのでということで頑張っていたいただければと思います。

ほかの方、どうでしょうか。そんなつなぎをしている間に思い浮かんだことあれば。よろしいですか。

そうしましたら、出てきた御意見も踏まえて何かあれば。最後、〇〇さん、お願いできますか。

[事務局] 本日頂きました御意見等については、早速下半期ですけれども、3年目の下半期に取り組めることはやっていきたいというふうに思います。

[委員長] ありがとうございます。

(6) コロナ禍における市民活動について [公開]

それでは、おかげさまで時間割がだんだん元に戻ってきましたので、6番目の議事、コロナ禍における市民活動についてというところで、これもまずアンケート結果の御説明を〇〇さんのほうからお願いいたします。その後、質疑応答、意見交換をさせていただきます。

[事務局] 〇〇の説明の前に、私のほうからよろしいですか。

今回の6番目の議事なのですけれども、昨年度末から今年度については、多くの市民活動のほうでコロナウイルスの影響を受けまして、事業実施等がすごく難しかった年度でございます。先ほども説明しましたがけれども、市民団体活動支援補助金の申請数が、当初10団体ありましたけれども、それが結果的に、再募集をかけたところ5団体。審査の段階で1団体辞退という形で、すごく影響を受けたなというふうに感じております。

また、審査した4団体についても、いろいろ手探りの部分もありましたし、準備がなかできなかったという部分もあって、結果、補助金交付としては、最終的に2団体までに減ってしまったということで、すごく厳しい結果になったと思うのです。

自治会関係で言いますと、4月5月に例年、自治会の総会というのを行うのですが、今年度に関しては、3密を避けるために書面表決という形で、多くの自治会さんが総会を実施しまして。本来、総会後も、その年度の事業実施等に向けて、月1回とか2か月に1回という定期的な会合を本来であればするところなのですが、その部分で自治会長さんの判断によっては、なかなか会議が進まないという地区もありまして、それぞれの事業実施や予算執行についても、いろいろ難しい状況が起きていると思います。

つきましては、今年度、まちづくりサポートセンターのほうで、登録団体さんのほうに活動状況に関するアンケートを取っていますので、その状況の結果も、報告を受けた後、皆様のほうでそれぞれの立場から、今までの経験等も踏まえて、活発な意見交換をしていただいて、今後の市の施策の参考にさせていただければと思いますので。まずは、アンケート結果の報告をさせていただいて、その後、お願いいたします。

[事務局] では、資料4を御覧ください。

コロナ禍における登録団体の活動状況と「まちサポひろば」、交流事業に関するアンケート調査結果ということで、8月にまとめたものです。

ページを開いていただきまして、目的なのですが、その前に、今年度に入る直前、2月から3月の団体さんの様子、春のイベント、事業が軒並み延期の結果、中止になるというような動き。それから、総会、特に法人格を持っている団体さんなどは、総会をしなくてはいけないのですが、まずその資料を作成できない、印刷ができない、開催ができない。そのような状況がございました。

非常に団体活動がやりにくい、できないという状況の中で、最初、春先に実態調査しようということもちょっと思っていたのです。それは、会議できる、できないというところで、いろいろお声を頂いていて、こんな会議のやり方をしたとか、どうしたら会議ができるだろうかというようなことが、非常に混沌としていた状況でした。

ただ、実質的には、この調査は、7月1日から1か月間お願いして回答を得たということで、感染の状況によって大きく結果が変わってくることもあるということをお承知ください。あくまでも、8月現在の団体さんの様子ということで捉えていただければと思います。

回収数については、64団体の団体さんから御回答がありました。回答率は67.4%です。調査5のところは、何を言っているかということ、複数回答があるので、足すと100を超えることがありますということをお知らせしておきます。

では早速、質問1から簡単に説明します。影響がありますかということ。とてもあるというのが6割近くです。どんな影響だったかということ、自主事業ができていない。それから、団体内の会議ができていない。それから、イベントなどを縮小した。それから、収入が減ってしまった。それから、団体のやっつけようという意欲が低下してしまったということ。そういう形でいろいろな影響が一気に団体さんに来たということです。

事業の縮小については、収入がなくなってしまう。それから、一般参加の募集ができなくなってしまうというようなことも影響がありまして。会費を半額にする団体さんもある一方で、集まる回数を減らそうという団体さんとか、様々いろいろ動きがありました。

一番御相談が多かったのが、意欲がなくなってしまうのではないかということですね。実際に、皆さん集まりたかったというのは、後から聞きましたけれども。このまま、いつまでもこんな状態続くのだろうか、どうしたらいいだろうかというのは、御相談が多かったです。

質問3、活動を維持するというのが一番の目的であるわけですがけれども、どういう取り組みをしましたかというところでは、感染対策です。これについては、市から出ているガイドラインを積極的にまちサポも皆さんにお伝えして、何とか集まるときとかに役立てていただくというところでした。あとは、事業見直し。それからオンライン。そのようなことを取り組まれている団体さんが、4分の1ほどいらっしゃいました。

次のページをめくっていただいて。もう今年度は諦めて、来年度にという団体さんもありましたし、参加型の事業であれば、一般公募はせずに、会員だけでやったというような団体さんもいらっしゃいました。新しい動きとしては、やはりオンライン、LINEであったり、Zoomなどを使って集まったり、役員会だけは開く。そのような動きを見せた団体さんが多かったように思います。

現在、これは7月現在ですが、会議などを行ったか。団体さんの動きについて問いましたところ、会議は行った、見通しも立てたという団体さんが半数いらっしゃいました。一方で、会議もやっていない、見通しも立っていないという団体さんが16.9%いらっしゃるというのが7月の段階です。

細かいことをいっぱい書いてありますが、新しく会議を行ったという団体さんは、オンラインとかに取り組んでチャレンジされたというところでは。

4ページ。質問5、まちサポに対しての御要望というところでは、やはりオンライン会議とかウェブセミナーについて、何とかならないかという御要望がありましたので、まちサポは、それを7月からZoomの体験会ということで実施して、少しずつリテラシーを上げていただくという寄り添いをしました。9月からは、会議をやるのではなくて、今度は事業としてオンラインを使えるようにということで、応用編ということもやっています。少しずつ皆さんが、オンラインに取り組もうというところに私たちもフォーカスしているところです。

あとは、まちサポとしての御要望が多かったのは、やはり印刷機を使用中止にしてみました。4月7日から5月31日まで休館になったために、印刷ができないという状況に陥ったため、そこに対する御要望が多かったなというふうに思います。

あと、まちサポひろば、7、8については、一応お伺いした上で企画を進めているところでございますので、何かあれば、御質問でお答えしたいと思います。以上です。

[委員長] ありがとうございます。

そしたら、アンケート内容もそうですし、その他。ちなみに白井市として何か、コロナ禍の市民活動に対する支援とか、現状ないしは今後の予定とかあるのですか。そういうのを先にお聞きしてから、意見交換を。

[事務局] 市民活動で大きな形で考えますと、自治会さんに交付させていただいている補助金があるのですけれども、その補助金の使い道を少し緩和させていただいて、コロナの感染予防対策をはじめ、ふだんの事業ができない場合には、こういった使い方も認めさせていただきますということで実施をさせていただきました。

それから、今後についてなのですが、このオンラインに対するニーズが高いということで、来年にはなってしまうのですが、2月以降にオンラインの体験研修会を、公益活動を実施されている団体の方を対象に、数多く実施をしていくという予定でございます。

[委員長] ありがとうございます。私が言うのもなんなのではございますけれども、白井市さんが独自支援策でやられている中小企業向けの支援金とか、持続化応援金でしたっけ。それも一応NPO法人も対象にさせていただいているのですかね。

[事務局] そうですね。

[委員長] これも実は、NPOクラブさんとかが、千葉県に対してロビー活動をした結果、千葉県の基準が変わって、NPO法人が対象となった後、白井市さんも、それにならって対象になったということで。当初は、NPO法人は対象外だったのですけれども、市民側の動きで変わったということで、一応コメントさせていただきました。

そんな感じで、コロナ禍というのは、非常に緊急性も高くて、いろいろなことがみんな手探りでやっていたのが、いい面、我々NPOとか市民側の意見も通るところも大きく実現している施策もいっぱいありますので。こういった機会に、皆さんからぜひ、御意見とか御要望とか言っていただければなと思うのですが。どうでしょうか。

[事務局] すみません。オンライン化の補足で。

[委員長] はい。

[事務局] 7月からオンラインの体験会をやりますと出ているのですが、これは継続的に毎月やっております、多分七、八回、回数は重ねております。そこで、オンライン上で交流もだんだんできるようになってきたというのもあるので。新しい形を模索しながら、団体さんと一緒にスキルを上げているところです。

[委員長] ありがとうございます。ニーズもあって、実際、好評だということですね。いかがですか。

はい、どうぞ。

[委員] 建設的な意見ではないのですけれども。これじゃ、分からないのですよ。これ、ただ分析はしたのですか。ただこれ、集めて集計して、だーっと平たく並べているから、それを見て、さっき口で説明してくれたように、この中で例えばネットの利用とか、会議

スペースとか、広報に関するコメントがこのぐらいありました、多かったとか、そういうのが全くなくて。ただ集計して、だだっと広げてというと、普通に私、調査とかそういう研究とかやっているのですけれども、一番最初にこういうふうを広げて、それから分析するために、いろいろ例えば、相関をとって、こう言っている人たちはこういう傾向があるのだなと見たりとか、重回帰とかやってみたりとかするのに。これ一番最初の、ただ、だだっとまとめただけの資料を見せられて、何かありますかと言われると、これからもう少し分析してみないと分からないという感じになってしまうと思うのです。もう少し、さっき市としての施策がありますかという話もあったと思うのですけれども、こういうことが出たので、こういうことをやろうと考えています、いかがですかとかというふうに聞いてくれると、もっと分かりやすいのだけれども。全部見せられちゃうと、ちょっと途方に暮れてしまうというのがあるのですけれども。

〔委員長〕 私も正直、これを拝見したとき、せめてクロス集計ぐらいはさせていただいて、例えば、任意団体だとこういう傾向があったとか、自治会さんはこういうことが多かったとか。財政規模で大きな団体は比較的そんなに困っていないけど、小さい団体で困っているとか。せめてそれぐらい分析していただかないと、いわゆるローデータに近い、生データとか。それをぱっと見せられてやれと言われても、我々に与えている情報量が少なすぎて、感想しかコメントできないという状態になっちゃいますので。

これが例えば、10月の初旬に行われたアンケートなら分かるのです、ローデータしかないというのは。ただ、これ8月にやっているではないですか。2か月あったわけで、2か月間の中に、このデータを放っておくのではなくて、ちゃんと分析して、本当に困っている団体さんには、別途電話でヒアリングするとか。仮に、先ほどの報告書で出てきた、調査研究機能の取り組みがこれですと言われてしまうと、正直、それは残念としか言いようがない。重回帰分析までしろと言っているわけではないのです。せめて、ちゃんと皆さん、時間を取ってアンケートに答えてくれたわけだから、それに報いるためには、ちゃんとそのいただいたデータを大事にして市の施策に生かしていく、まちサポの事業に生かしていくという心意気というか、覚悟が感じられないと、今後協力してくれなくなってしまうのですよ。アンケート依頼はいっぱい来るので。ですから、そこは団体さんの思いを大事にしてあげたいなと私も思いました。

はい、どうぞ。

〔委員〕 今の〇〇さんがおっしゃるとおりで、これは、タイトルが、調査結果報告書だけなのです。厳密では調査結果に基づいて、対応策。これを本当はつけなきゃならない。ただ、時間的にあれであれば、今日10月ですから、12月の次の会合までにそれを作ると。調査結果に基づいて、継続するもの、やめるもの、あるいは新しく作るもの。2か月間でできるかどうか分かりませんが。今課長がおっしゃったように、オンライン講習会をやるとか、そういう前向きな言葉を盛り込んで、この結果に基づいた対応報告書というのを

作っていただければありがたい。

これは、登録団体のあれですから、この結果が登録団体だけに行くのか、それ以外にも、自治会とかに行くのか。せっかく作るわけですから、隅々まで届くような設定にさせていただければありがたいと、僕はそう思います。

[委員長] ありがとうございます。

[委員] 時間が、12月、2月までに間に合えば。

[委員長] まだ2カ月ぐらいありますから。

どうぞ、どうぞ。こんな御意見で。

どうぞ。

[委員] 実は、私のところも幾つか登録団体に入っているのですが、防災に関しては、今年度活動なしということも早く決めたつもりで、このアンケートを頂いたときに、うちは今年は活動しないからいいかなということで、すみません、回答しなかった状況で。こういうのをいただくと、あのとき回答しておけばよかったなと思うのですが。申し訳ありませんでした。

質問3のところを見ますと、やっぱり感染症対策で非常に困っているというところが、非常に多いという形が出ているかと思うのです。先ほど課長のほうから、自治会の補助金の使い方の緩和をして、その感染対策に対してもということ、お話があったかと思うのですが。ほかの団体さん、もっと小さいこじんまりとした団体さんのほうも、そういったインフォメーションができていたのかなというのがちょっと分からないところです。

実は、防災でやる訓練のほうも、毎年9月、10月に行うのですが、それをやるための運営委員会といいますか、実行委員会でコアなメンバーが集まるということも、怖くて難しいねというようなことがあります。会場が使えないということもありますし。どうしても、集まるメンバーが高齢の方が多いものですから。一堂に会するというのは、やっぱり皆さんも怖いということで、会議自体、話し合い自体進められないということがありました。

実際のところは、マスクですとか、アルコールとか、それがもう品薄状態ということがありましたので。先ほど、補助金の内容の緩和というのがありましたけど、これを市のほうの要望になろうかと思うのですが。そういうこじんまりした団体に、市のほうで、備蓄の関係だとか、そういった備品を早めに出してくれることをすれば、先ほど意欲がちょっと低下しちゃうかなという話もありましたけれども、市のほうでこれだけバックアップするのですよという姿勢があって、その中で各団体も頑張っていこうという励みになれば、結果論で申し訳ないのですけれども、そういうのもあったかなというふうに思います。

確かに、白井市のほうとして、国、県のほうからいろいろなものはあるのですけれども、先ほど委員長もおっしゃっていたように、国、県のほうが変わったから、それを受けて市が変わったという話ありましたけれども。市のほう、市の財源も厳しいのは、重々分かる

のですけれども、市の独自のこういうものがあるというものを出示していただくと、市民活動に限らず、市民としては、いろいろな生活がしやすいのかなと思っておりました。以上です。

[委員長] ありがとうございます。ぜひ、市のほうで御検討いただければと思います。まだもう少し、5分ぐらいありますけど。

どうぞ、〇〇さん。

[委員] 今回、見せていただいたアンケート調査結果が、まちサポ登録団体のみです。市が知りたいのは、登録団体だけのことなのかなと。公民館、児童館に関することも、桜台センターでは、高齢者の団体さんがコロナで集まれなくなって、解散しましたという話も二、三ありますので、そういうところを拾ってはくれないのかなという。白井市内で知りたいのではなく、まちサポの登録団体だけが知りたいのかなという気になってしまいました。市の中の団体さんについて、できれば生涯学習課だったり、子育て支援課だったりとか横につながって、もうちょっと広く知ってほしいなと思いました。以上でございます。

[委員長] ありがとうございます。12月の会議に向けてとか。やっぱりおっしゃるとおりで、別に、まちサポの登録団体だけが対象ではないと思いますので。今回たまたま、この8月の調査はそうでしたけれども、その後、補足的にヒアリングとか追加調査を含めて拾っていただければと、私も思いますけれども。

ほかは、いかがでしょうか。

〇〇さんとか、いかがですか。

[委員] 私はこの会議に出て、いろいろ考えました。地域性がありますけれども、何でも知識があれば、この補助の団体になっていくのか、全くこういうことは頭になかったのです。だから、私らのPRが足りないのかなとも思いましたし。在来地区ですと、困っていたことがあっても、大体自宅で解決する。パソコンがなくて、隣でやってもらうとか、誰か友達に持ってきてもらうとか、印刷は誰。ここまで頭回すというのは、なかなかないと思います。農家は大体生涯現役、ここで頭使うのだったら働いたほうが良いという。だから、地域性もあると思いますけれども、非常に私も、こういうふうに出てきて、地域性とか在来地区。私はここに70年近く住んでいますけれども、村、町、市になって、大分我々の頭を変えていかなくてはしようがないのかなという認識はあります。

先ほど言ったように、私、神社の役員なんかをやっているのですけれども。それは、中止。中止でも、神主さんは呼ばなくてはしようがない。だから、役員2人と神主さんだけで神事をやろうとか、なかなか頭使うところがあるのです。今まで、神社の大掃除、お墓の掃除を地区共同でやっていたのですけれども、今年は二つとも中止。でも、コロナだから、病魔退散だから、年寄りが、せいぜい神主呼んで祭りだけはやったほうが良いのではないとか言われるので。秋の祭りは、飲食なしで、役員と神主さんでやろうとか。これ

とは全然関係ないのですけれども、うちの流れとしては。ですので、こういう補助金、いろいろなやつ、全くこういうことをやっているという頭になかったのです。

私、福祉協議会もやっているのですが、どっちがどっち、今日は何の会議だったかなとか、こんがらがってしまうこともあるのですよ。同じような。

[委員長] そうですね。ちょっと分かりづらいようなところもあるかもです。ぜひ、活用していただきたいというのと。あと、やっぱり神社のお祭りが中止になるというのは、確かに宗教的な話にもなるので、市が直接関与しづらいかもしれないのですけれども。

[委員] 私どものところにはあるので、参考までに言っただけで。

[委員長] そうです。別に否定な意味じゃなくて。なののですけれども、ただ地域にとっては、非常に重要なイベントではないですか。だから、先ほどの話とも絡むのですけれども、まちサポのこのアンケート調査では出てこないかもしれないけれども、そういった地域のお祭りが中止になるという影響は、やっぱり出てくるだろうから。もうちょっとこの調査研究機能というなら、幅広く、コロナ禍における市民活動とか地域のコミュニティに関する影響をちゃんと分析していただきたいなと、〇〇さんの話を踏まえて、ますます思った次第でございます。

[委員] 私たちも、市の動向というのは大事なのです。市で招集がないから、俺はもうやらないとか。諸々の団体は、市の動向というか、そういうのは、みんな注目していると思います。市でやらないから、俺らは中止だって大威張りで言えるようになる。

[委員長] なるほどね。

[委員] そちら辺はあります。

[委員長] ありがとうございます。

[委員] この後、報告があってもなくてもいいのですけれども、生かすとすれば、その2ページのところに、活動を継続再開するために実践した取り組みという項目があって、それなりの回答があるので。継続したところは、どういう工夫をしたのかというところのヒアリングで。これも、項目がもうちょっと工夫もするところもあるかとは思いますが。

一つは、感染症対策ですよ。これは活動の形態によって違って、居場所系とか、環境系とかで違うと思うのですけれども、そういうところで、それぞれがどんなことをやったのかということを知るといっても有益かなというふうに思いますし。それから、事業見直しというところで、活動のやり方を変えて実施したというところもあると思うのです。屋内でやっていたものを屋外でやるとか。あるいは、感染症対策とも関わりますけれども、普段は集まっているのだけれども、離れているようにしたとかという、そういう事例もやっているところとか、この後に再開したところで聞くとかということ。そういう追跡調査をしていただければいいのかなというふうに思います。オンラインがかなりクローズアップされているので、それだけが唯一の回答ではないだろうというふうに思いますので、追跡調査していただければなと思います。

[委員長] ありがとうございます。

そうしましたら、ぼちぼち時間なのですけれども、最後にとりう方、いらっしやいますか。大丈夫ですか。

そうしたら、今の御意見を受けて、それぞれ〇〇さんと事務局から、何かコメントがあれば。

[事務局] 調査については、深掘りするという視点で、改めて追跡調査をします。

[委員長] よろしくお願ひします。

〇〇さん、どうですか。

[事務局] まさに、実態を浮き彫りにして、そこからそのことを受け止めて、改善するという。先ほどの計画実施評価と同じ考え方になると思うので、今後検討していきたいと思ひます。

[委員長] ありがとうございます。

(7) 今後の委員会予定について[公開]

[委員長] それでは、最後の議題、おかげさまで時間どおりに終われそうです。

今後の委員会予定について、事務局のほうから、よろしくお願ひします。

[事務局] これもコロナに関連してなのですけれども、この委員会、全部で委員さん11名と、事務局が3名、14名の会議になります。市役所の中に、なかなか大きい会議室がなく、次回の予定、12月、その次2月ということで、計画を先ほど伝えさせていただいたのですけれども、既に、12月にこのメンバーが入れるぐらひの会議室を取ろうとすると、今、有力なのが、12月18日午前、午後いずれか、12月22日午前中、12月23日の午前中。この4パターンぐらひしか、12月は会場がおさえられない関係がありまして。今、御出席の委員さんの中で、その日、既に都合が悪いという方がいらっしやれば、そこは避けて予定をしたいと思うのですけれども。もう一度申し上げます。

[委員長] 順番に聞いていきましょう。手を挙げてもらって。

[事務局] 12月18日金曜日、午前、既に都合が悪い方いらっしやいましたら、挙手をお願ひします。〇〇さん1名でよろしいですか。

18日午後、御都合が悪い方。〇〇さんですね。

22日火曜日、午前中、御都合悪い方いらっしやいますか。今のところ、全員大丈夫ですかね。

最後、23日水曜日、午前中、御都合悪い方いらっしやいますでしょうか。〇〇さん。

そうしたら、今日来られていない委員さんが3名いらっしやるのですけれども、一応12月22日午前中という形で御準備されてもいいですか。あと、ほかの3名の方にも確認をさせていただきますが、一応この場では、12月22日の火曜日、午前中が有力という形で考えておいていただいて。ほかの委員の確認が終了しましたら、また御連絡を差し上げますの

で、よろしく願いいたします。

[委員長] それでは、本当に鐘の音と共に、時間ぴったりで終われることができました。特に初回の御参加の方は、初めての会議でしたけれども、積極的に御発言いただきまして、ありがとうございました。また次回も、12月、よろしく願いいたします。お疲れさまでした。